

リコーグループ統合報告書2023について

2023年4月、株式会社リコーの代表取締役 社長執行役員・CEOに大山晃が就任し、リコーグループはデジタルサービスの会社への変革に向けた「実行」の3年間となる第21次中期経営戦略(21次中経)をスタートさせました。

本報告書では、リコーグループの中長期の経営戦略や価値創造プロセスをお伝えするとともに、投資家をはじめとするステークホルダーの皆様からの「リコーグループ統合報告書2022」へのご意見や、日々のエンゲージメント活動で得られた示唆などを踏まえ、以下のポイントで強化・改善を図っています。

新体制によるマネジメントのリーダーシップ

新しい経営体制をご紹介するとともに、「トップメッセージ」では、デジタルサービスの会社への変革に向けた戦略の方向性や取り組み、思いを語っています。

また、特集の「代表取締役 会長・筆頭社外取締役 対談」では、CEOサクセッションおよび21次中経策定のプロセスを紹介しています。

デジタルサービスの会社としてのリコーの価値創造プロセス

価値創造プロセスの全体像を紹介し、主要経営資本やリコーの強みとビジネスモデル、リコーのデジタルサービスとは何かについて解説を加えています。

さらに、中長期の価値創造戦略として、第20次中期経営計画(20次中計)の振り返りを実施するとともに、21次中経の財務・将来財務の目標値、3つの基本方針を紹介しています。また、人的資本戦略については、リコーらしい人的資本を形成する価値創造モデルと関連施策、財務・資本戦略については、ROIC経営による事業管理、成長を支える資本政策を紹介するなど、デジタルサービスの会社への変革を支えるグループ本部の戦略をご理解いただくための情報を開示しています。

事業成長とESGの同軸経営による価値創造

全社経営目標として、資本効率を意識した財務目標とあわせて、将来財務目標(ESG目標)を定め、事業成長とESGに同軸で取り組んでいます。

デジタルサービスの会社としての価値創造について、ビジネスユニットごとの財務目標やリスクと機会、戦略的取り組みや事例を記載することに加え、地域戦略を担う4地域の統括長が21次中経にかける意気込みを語っています。

また、企業価値向上に貢献するESG活動について、環境・社会に関する取り組みと成果を紹介するとともに、透明性・実効性の高いガバナンス体制の実現を目指した取り組みを開示しています。

本報告書は、さまざまな部署間の緊密な連携と、ESG委員会での経営陣による議論を経て作成しています。また、開示委員会にて、開示の必要性があること、正確性が担保できるプロセスで作成されたものであることと判断され、承認されたものです。

本報告書がステークホルダーの皆様にとって、リコーグループの長期的な企業価値向上に向けた取り組みへの理解を深める一助となれば幸いです。